

令和7年度関東高等学校水泳競技大会水球競技【戦評】

会場: 埼玉県立大宮公園屋外水泳場【2025/7/21】

準決勝1				
埼玉栄	10	2 1 2 5	— — — —	3 3 4 2
		PSO		
		唐木慎太郎		
		竜名広貴		
		審判:		

この試合のプレー集計

埼玉栄	23	SH数	25
	1	速攻数	4
	12	ST・SB	15
	11	SH・P誘発アシスト	11
	29%	GK阻止率	38%
	5	EX反則数	9

前橋商

ST・SB:ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

今夏のインターハイ出場校による準決勝。インターハイでは第2シード権を有している埼玉栄とフリー抽選ながら、優勝候補筆頭の前橋商との一戦は、インターハイを占う意味で大きな意味を持つ。スピード一な展開水球の埼玉栄と試合巧者の前橋商。特に埼玉栄は、攻撃が実らなかった後のディフェンスをどこまで整備し、前橋商の④齋藤をどこまで動かさずに守れるか。④齋藤が縦横無尽に動ける状態にしておくと、センター⑥前田が機能するだけに、中盤での④齋藤へのプレッシャーがカギを握る。

<1P>

栄攻撃時のパスミスから前橋商が攻め上がり、外周から⑤椎名がループを見事に決めて、前橋商が先制。続けて、埼玉栄パスをインターセプトして速攻右サイド展開から⑥前田が決めて、前橋商が2点リード。懸念された埼玉栄攻撃時のミス。しかし、前橋商にも攻撃時のミスが出て、そこから埼玉栄が泳いで④稻垣が決めるかと、さらに⑥茂呂が退水を誘発して⑧池田が決めて同点。しかし、直後の前橋商攻撃、前橋商の右サイドからセンターというパターンへの対応が不十分で、センター⑥前田に2点目を決められて、埼玉栄2-3前橋商で第1ピリオド終了。埼玉栄DFでの前橋商右サイドへの対処が後手に回り、攻撃もシュート数が3本に留まってしまった第1ピリオドだった。

<2P>

埼玉栄の動きが向上し、前線までボールが展開できるようになったが、コントラ反則や6mSHミスから前橋商に攻め込まれ、前橋商④齋藤⑦星に決められ、点差を広げられた。攻撃全体がやや空回りしていて、そうした攻撃からの転換で後手を踏むという流れは第1ピリオドと同様。ピリオド中盤、お互いにシュートまで攻撃を展開していたが、そのシュートが決まらず長いラリー状態。埼玉栄②小久保のパスカットから⑨遠藤が決めて点差を詰めた。その後、第1ピリオド同様に、前橋商センター⑥前田にパスが入って決められ、埼玉栄3-6前橋商で前半を折り返した。埼玉栄のこうしたDF対応の不十分さは課題。

<3P>

このピリオドも埼玉栄が果敢に攻め込むものの、コントラ反則などのミスを前橋商に突かれて連続失点。ピリオド序盤で埼玉栄3-8前橋商と点差が開いてしまった。埼玉栄攻撃リズムがなかなかかみ合わず、そうした隙を前橋商が確実に得点に結びつける展開が終始続いている。埼玉栄としては、前線でもう少し動いて短いパスで相手を翻弄することができれば活路が開けそうだが、どうしてもやや遠目からのシュートに頼っているくらいがある。前橋商のセンター位置で②関口⑥前田が存在感を活かし、④齋藤が加点する展開で、埼玉栄5-10前橋商で第3ピリオド終了。

<4P>

やや点差が開いた時の前橋商は雑な試合運びになる傾向があり、点差を一気に詰められる試合も多い。このピリオドでも不用意なパスミスを起点に埼玉栄が④稻垣の退水誘発。そこを⑧池田が決めて4点差に。その後、同様の埼玉栄チャンスがあったが栄側にもミスが多く、点差を詰められずに時間が経過。このあたりのミスを誘うようなリズムづくりは前橋商の真骨頂ともいえる。前橋商④齋藤がディフェンス時に自分のマークを覚えるように先回りして、じっくり次のチャンスを伺うようなリズムづくりだ。しかし、粘る埼玉栄④稻垣が前橋商GKパスを読んでスチールしてからの速攻を⑤菊池が決めて3点差に。ここで再開からセンター攻撃に出る前橋商攻撃をどう防ぐか。選択したのはセンターへの下がりDF。しかし、前橋商右サイド③深澤にはノープレッシャー。センター位置争いで前橋商⑥前田に主導権を取られ、③深澤からのラストパスが通って前橋商が加点。残り時間を考えると、この得点が試合を決めた形となった。こうした埼玉栄が得点した直後の再開プレー(前橋商⑥前田のセンター攻撃)でこの試合4得点。栄側としては点を取った直後に取られるパターンを4回も許したことが結果的に勝負を分けた試合となった。前橋商の再開プレーは、右サイド③深澤からトップや左45°④齋藤からセンター⑥前田という2パターンが軸。対戦チームとしては少なくともどちらか1パターンに絞れるようなDFを意識する必要があるだろう。

第4ピリオド栄が追い上げたものの、埼玉栄10-12前橋商で前橋商が決勝進出を決めた。